

より実践的な工業教育による人材の育成を目指して

新潟県立長岡工業高等学校長
高橋 俊 司



本校は明治36年に開学し、本年5月18日に創立119周年を迎える新潟県の中で最も歴史と伝統のある工業高校です。卒業生の方々は、地元産業界のみならず、政治、文化・芸術、教育など多くの分野で活躍しておられます。

本校では、工業科として「くくり募集」し、2年次から機械工学科（機械創造コース、電子機械コース）、電気電子工学科（電気エネルギーコース、電子制御コース）、物質工学科（材料環境工学コース）、産業デザイン科（産業デザインコース）の4科6コースで学ぶシステムとし、生徒の適性や進路希望に合わせた学習内容の選択を可能にしています。

また、3年間を通じて「環境とエネルギー」をテーマとして、効率的なエネルギーの利用方法や省エネに結びつく素材及びその利用技術等について学ぶことができる教育課程とし、将来、地球環境に配慮した素材の開発や製品の設計ができる中堅エンジニアや、省エネや環境に配慮した生産工程を作ることができる管理技術者の育成を目指しています。

さらに、本校は、生徒が将来の技術者、技能者に成長するために必要な基礎・基本を身につけることを主眼としながら、実社会での産業活動を意識し、インターンシップを通じた職業観の育成や、実習や課題研究等を通じた「ものづくり」感覚の定着と自己評価能力の育成、グローバル化する時代に対応できる英語力の強化、各種大会やイベントへの積極的参加による自己有用感、達成感の獲得などに重点を置いた教育活動を行っています。

令和4年度（2022年度）から年次進行で実施される新学習指導要領の教科「工業」では、地域産業や地域社会との連携や交流を促進させる観点から、「地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努める」と明記され、工業高校においては、企業技術者等を迎えて、チームティーチングによる授業等により、技術の高度化、情報技術の発展への対応を確実に行っていくことが求められています。

本校では、これまでの取組に加えて、今後は、連携や交流促進の企画段階から地域の産業界からの参画を求め、協働いただく中で、より実践的な工業教育を展開することにより、自ら積極的に考え工夫することができる人材、新しい時代に対応できる人材を育成し、産業界や地域社会に貢献していきたいと考えています。